

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6601469号  
(P6601469)

(45) 発行日 令和1年11月6日(2019.11.6)

(24) 登録日 令和1年10月18日(2019.10.18)

(51) Int. Cl.		F I			
<b>A 4 4 C</b>	<b>5/14</b>	<b>(2006.01)</b>	A 4 4 C	5/14	J
<b>A 4 4 C</b>	<b>5/02</b>	<b>(2006.01)</b>	A 4 4 C	5/02	D
<b>G O 4 B</b>	<b>37/16</b>	<b>(2006.01)</b>	G O 4 B	37/16	Z

請求項の数 9 (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2017-194049 (P2017-194049)	(73) 特許権者	000001443
(22) 出願日	平成29年10月4日 (2017.10.4)		カシオ計算機株式会社
(65) 公開番号	特開2019-63384 (P2019-63384A)		東京都渋谷区本町1丁目6番2号
(43) 公開日	平成31年4月25日 (2019.4.25)	(74) 代理人	100096699
審査請求日	平成30年10月5日 (2018.10.5)		弁理士 鹿嶋 英實
		(72) 発明者	中塚 義樹
			東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
			計算機株式会社 羽村技術センター内
		(72) 発明者	正林 盛次
			東京都羽村市栄町3丁目2番1号 カシオ
			計算機株式会社 羽村技術センター内
		審査官	片岡 弘之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バンドおよび時計

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

装着凹部が端部に開放されて設けられた軟質の合成樹脂製のバンド本体と、  
前記装着凹部に埋め込まれ、かつ複数の取付片が前記装着凹部の前記開放側に向けて突出して設けられた硬質の合成樹脂製の補強部と、  
前記複数の取付片に固定されて前記バンド本体の前記端部に前記補強部と共に取り付けられるバンド連結部と、  
前記複数の取付片は、前記バンド連結部に設けられた複数の取付穴に嵌め込まれる第1取付片と、  
前記第1取付片に前記バンド連結部を固定する第1ねじ部材と、  
前記第1ねじ部材と前記バンド連結部との間に設けられた緩衝材と、  
を備えていることを特徴とするバンド。

10

【請求項2】

請求項1に記載のバンドにおいて、前記補強部は、前記バンド本体の一部が食い込む食込み部を備え、インサート成型によって前記バンド本体と一体に設けられていることを特徴とするバンド。

【請求項3】

請求項1または請求項2に記載のバンドにおいて、前記補強部の前記複数の取付片は、前記バンド連結部の下に配置される第2取付片を備えていることを特徴とするバンド。

【請求項4】

20

請求項 3 に記載のバンドにおいて、前記第 2 取付片に前記バンド本体と前記バンド連結部とを固定する第 2 ねじ部材を備えていることを特徴とするバンド。

【請求項 5】

請求項 1 ~ 請求項 4 のいずれかに記載のバンドにおいて、前記第 1 ねじ部材は、前記バンド連結部の下側から前記バンド連結部を通して前記第 1 取付片に螺着することを特徴とするバンド。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 請求項 4 のいずれかに記載のバンドにおいて、前記第 1 ねじ部材は、前記バンド本体の長手方向と直交する幅方向における前記バンド連結部の両側から前記バンド連結部を通して前記第 1 取付片に螺着することを特徴とするバンド。

10

【請求項 7】

請求項 1 ~ 請求項 6 のいずれかに記載のバンドにおいて、前記補強部は、硬質かつ弾性変形する素材であることを特徴とするバンド。

【請求項 8】

請求項 4 に記載のバンドにおいて、前記第 2 ねじ部材は、前記バンド連結部の中間部に取り付けられていることを特徴とするバンド。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 請求項 8 のいずれかに記載されたバンドを備えていることを特徴とする時計。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、腕時計やバッグ、鞆、衣服に用いられるバンドおよびそれを備えた時計に関する。

【背景技術】

【0002】

例えば、腕時計のバンドにおいては、特許文献 1 に記載されているように、軟質の合成樹脂製のバンド本体の端部に嵌合凹部を設け、この嵌合凹部に硬質材料の補強片を嵌め込み、この状態でバンド本体の端部を補強片と共に腕時計ケースに取り付けるように構成されたものが知られている。

30

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2015 - 136547 号公報

【0004】

この種のバンドは、バンド本体の端部に設けられた嵌合凹部に硬質材料の補強片を嵌め込み、この嵌め込まれた補強片をバンド本体の端部に固定ピンによって固定し、この状態でバンド本体の端部を補強片と共に腕時計ケースにばね棒によって取り付けられている。

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、このような腕時計のバンドでは、軟質の合成樹脂製のバンド本体の端部に設けられた嵌合凹部に補強片を固定ピンで固定した構造であるから、腕に取り付け際のバンドのフィット感に欠けるという問題がある。

【0006】

この発明が解決しようとする課題は、バンドの装着性の向上および耐衝撃性に優れたバ

50

ンドおよびそれを備えた時計を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0007】

この発明は、装着凹部が端部に開放されて設けられた軟質の合成樹脂製のバンド本体と、前記装着凹部に埋め込まれ、かつ複数の取付片が前記装着凹部の前記開放側に向けて突出して設けられた硬質の合成樹脂製の補強部と、前記複数の取付片に固定されて前記バンド本体の前記端部に前記補強部と共に取り付けられるバンド連結部と、前記複数の取付片は、前記バンド連結部に設けられた複数の取付穴に嵌め込まれる第1取付片と、前記第1取付片に前記バンド連結部を固定する第1ねじ部材と、前記第1ねじ部材と前記バンド連結部との間に設けられた緩衝材と、を備えていることを特徴とするバンドである。

10

【発明の効果】

【0008】

この発明によれば、バンドの装着性の向上および耐衝撃性を確保することができる。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】この発明を腕時計のバンドに適用した第1実施形態を示し、(a)はその表面側を示した斜視図、(b)はその裏面側を示した斜視図である。

【図2】図1(a)に示されたバンドの端部を分解して示した要部の拡大斜視図である。

【図3】図2に示された補強部を示した拡大斜視図である。

【図4】図1(a)に示されたバンドの端部のA-A矢視における要部を示した拡大断面図である。

20

【図5】図4に示されたA部を示した拡大断面図である。

【図6】図4に示されたバンドの端部のB-B矢視における拡大断面図である。

【図7】図2に示されたバンド本体の端部に補強部をインサート成型してバンド連結部を取り付ける状態を示した要部の分解斜視図である。

【図8】図7のC-C矢視における要部を示した拡大断面図である。

【図9】この発明を腕時計のバンドに適用した第2実施形態における要部を示した拡大斜視図である。

【図10】図9に示されたバンド本体の端部にバンド連結部を取り付ける状態を示した表面側の分解斜視図である。

30

【図11】図9に示されたバンド本体の端部にバンド連結部を取り付ける状態を示した裏面側の分解斜視図である。

【図12】図9のD-D矢視における要部を示した拡大断面図である。

【図13】図12のE-E矢視における要部を示した拡大断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0010】

(第1実施形態)

以下、図1～図8を参照して、この発明を腕時計のバンドに適用した第1実施形態について説明する。

このバンド1は、腕時計ケースのバンド取付部(いずれも図示せず)に取り付けられるものであり、図1および図2に示すように、バンド本体1と、このバンド本体1の端部に埋め込まれた補強部2と、この補強部2と共にバンド本体1の端部に取り付けられて腕時計ケースのバンド取付部に取り付けられるバンド連結部3と、を備えている。

40

【0011】

バンド本体1は、図1および図2に示すように、ウレタン樹脂、シリコン樹脂などの軟質の合成樹脂によって帯状に形成されている。このバンド本体1の端部には、補強部2が埋め込まれる装着凹部4が端部側に開放されて設けられている。すなわち、この装着凹部4は、図6および図8に示すように、バンド本体1の長手方向と直交する幅方向における両側部を除いて、バンド本体1の端部に長手方向にほぼV字形状に食い込んで形成されている。

50

## 【 0 0 1 2 】

この場合、バンド本体 1 の厚み方向における装着凹部 4 の上部には、図 1、図 2 および図 8 に示すように、上部突出片 5 が装着凹部 4 の開放側に突出して設けられている。また、バンド本体 1 の厚み方向における装着凹部 4 の下部には、下部突出片 6 が装着凹部 4 の開放側に突出して設けられている。

## 【 0 0 1 3 】

これら上部突出片 5 と下部突出片 6 とは、図 1、図 2 および図 8 に示すように、バンド本体 1 の幅方向の長さが同じ長さで、バンド本体 1 の端部における幅方向の長さよりも短く形成されている。また、これら上部突出片 5 と下部突出片 6 とは、バンド本体 1 の長手方向における下部突出片 6 の突出長さが上部突出片 5 の突出長さよりも長く形成されている。

10

## 【 0 0 1 4 】

補強部 2 は、図 2 および図 3 に示すように、ポリアセタール ( P O M )、ポリアミド ( P A )、ポリカーボネート ( P C ) などの剛性の高い硬質の合成樹脂で形成されている。この補強部 2 は、図 6 および図 8 に示すように、インサート成型によってバンド本体 1 の端部に埋め込まれた状態で一体に設けられている。

## 【 0 0 1 5 】

すなわち、この補強部 2 は、図 2 および図 3 に示すように、バンド本体 1 の装着凹部 4 に埋め込まれる補強部本体 7 と、バンド本体 1 の装着凹部 4 の開放側に向けて補強部本体 7 の端部から突出する一対の第 1 取付片 8 と、バンド本体 1 の装着凹部 4 の開放側に向けて補強部本体 7 の装着凹部 4 から突出する第 2 取付片 9 と、を備えている。

20

## 【 0 0 1 6 】

補強部本体 7 は、図 2、図 3、図 6 および図 8 に示すように、バンド本体 1 の装着凹部 4 にインサート成型によって埋め込まれた際に、装着凹部 4 の開放側に位置する補強部本体 7 の端面に設けられた凹部 7 a にバンド本体 1 の抜止め部 1 0 が設けられることにより、装着凹部 4 から抜け出さないように構成されている。

## 【 0 0 1 7 】

また、この補強部本体 7 には、図 2、図 3、図 6 および図 8 に示すように、インサート成型時にバンド本体 1 の一部が食い込む複数の食込み孔 7 b が設けられている。これら複数の食込み孔 7 b は、補強部本体 7 の端面に設けられた凹部 7 a に連通して設けられている。このため、複数の食込み孔 7 b に食込んだバンド本体 1 の一部は、抜止め部 1 0 に連結されている。これにより、補強部本体 7 は、バンド本体 1 の装着凹部 4 に強固に固定されている。

30

## 【 0 0 1 8 】

一対の第 1 取付片 8 は、図 2 ~ 図 6 に示すように、それぞれ丸棒状に形成され、バンド本体 1 の装着凹部 4 の開放側に位置する補強部本体 7 の端面における両側に設けられている。これら一対の第 1 取付片 8 は、補強部本体 7 の端面から突出する突出長さがバンド本体 1 の装着凹部 4 の上部に位置する上部突出片 5 の突出長さとはほぼ同じ長さで、かつバンド本体 1 の装着凹部 4 の下部に位置する下部突出片 6 の突出長さよりも短く形成されている。

40

## 【 0 0 1 9 】

第 2 取付片 9 は、図 2、図 3 および図 8 に示すように、平板状に形成され、バンド本体 1 の装着凹部 4 の開放側に位置する補強部本体 7 の端面における下部に設けられている。すなわち、この第 2 取付片 9 は、一対の第 1 取付片 8 の間に位置した状態で、強部本体 7 の端面における下部に設けられている。

## 【 0 0 2 0 】

この第 2 取付片 9 は、図 2、図 3 および図 8 に示すように、バンド本体 1 の幅方向の長さが一対の第 1 取付片 8 間の長さと同じか、それよりも短く形成されている。また、この第 2 取付片 9 は、補強部本体 7 の端面から突出する突出長さがバンド本体 1 の装着凹部 4 の下部に位置する下部突出片 6 の突出長さとはほぼ同じ長さで、一対の第 1 取付片 8 の突出

50

長さよりも長く形成されている。

【0021】

一方、バンド連結部3は、図1、図2および図7に示すように、バンド本体1の端部に補強部2と共に取り付けられるものであり、連結部本体11と一对の連結片12とを備え、これらがステンレスなどの金属によって一体に形成されている。連結部本体11は、バンド本体1の端部における上部に位置する上部突出片5と補強部2の第2取付片9との間に配置されるほぼ角棒状に形成されている。

【0022】

この連結部本体11は、図4および図6に示すように、バンド本体1の幅方向における長さがバンド本体1の端部における幅方向の長さと同じ長さに形成されている。また、この連結部本体11は、バンド本体1の長手方向における長さがバンド本体1の装着凹部4の下部に位置する下部突出片6の突出長さと同じか、それよりも少し長い長さで、一对の第1取付片8の突出長さよりも長く形成されている。

10

【0023】

この連結部本体11におけるバンド本体1の幅方向の両側部には、図4および図6に示すように、補強部2の一对の第1取付片8が嵌め込まれる一对の取付穴11aがそれぞれ設けられている。すなわち、これら一对の取付穴11aは、その内径が一对の第1取付片8の外径と同じ大きさに形成されている。

【0024】

また、これら一对の取付穴11aは、図6に示すように、バンド本体1の長手方向における長さが第1取付片8の長さと同じで、かつバンド本体1の長手方向における連結部本体11の長さよりも短く形成されている。これにより、一对の取付穴11aは、バンド本体1の長手方向に貫通することなく形成されている。

20

【0025】

また、この連結部本体11における補強部2側の端面には、図2、図6～図8に示すように、バンド本体1の端部に設けられた抜止め部10が配置される凹部11bが設けられている。これにより、連結部本体11は、補強部2側の端面の凹部11bにバンド本体1の抜止め部10が配置された際に、連結部本体11の両側部とバンド本体1の端部の端面とが隙間を持って互いに接近して配置されるように構成されている。

【0026】

一方、一对の連結片12は、腕時計ケースのバンド取付部（いずれも図示せず）に取り付けられるものである。これら一对の連結片12は、図1、図2および図6に示すように、バンド本体1の幅方向における連結部本体11の両側部にそれぞれバンド本体1の長手方向に突出して設けられている。

30

【0027】

すなわち、これら一对の連結片12は、図1、図2および図6に示すように、先端部がそれぞれ半円形状に形成され、バンド本体1の幅方向における間隔がバンド本体1の上部突出片5と下部突出片6とにおけるバンド本体1の幅方向の長さとはほぼ同じ長さで設けられている。

【0028】

また、これら一对の連結片12には、図1、図2および図6に示すように、連結孔12aがバンド本体1の幅方向において同一軸に対応して設けられている。これにより、一对の連結片12は、これらの間に腕時計ケースのバンド取付部の突起部が配置された状態で、ばね棒などの連結ピン（いずれも図示せず）が各連結孔12aと突起部の貫通孔とに挿入されることにより、腕時計ケースのバンド取付部に取り付けられるように構成されている。

40

【0029】

ところで、補強部2の一对の第1取付片8とバンド連結部3とは、図4および図5に示すように、第1ねじ部材13によって固定されている。この第1ねじ部材13は、第1取付片8のねじ孔8aに下側から螺合するねじ部13aと、バンド連結部3の連結部本体1

50

1の下部に設けられた挿入孔14に下側から挿入される首下部13bと、連結部本体11の挿入孔14に設けられた座ぐり部14aに緩衝材15を介して配置される頭部13cと、を備えている。

【0030】

この場合、第1取付片8のねじ孔8aは、図4および図5に示すように、バンド本体1の長手方向における第1取付片8の中間部に上下方向に貫通して設けられている。連結部本体11の挿入孔14は、第1取付片8のねじ孔8aと同一軸上に対応した状態で、上下方向に貫通して設けられている。この挿入孔14は、その内径がねじ孔8aの内径よりも大きく形成されている。連結部本体11の座ぐり部15は、挿入孔14の下部に設けられ、その内径が連結部本体11の挿入孔14の内径よりも大きく形成されている。

10

【0031】

これにより、第1ねじ部材13は、図4および図5に示すように、ねじ部13aをバンド連結部3の下側から連結部本体11の挿入孔14に挿入させて補強部2の第1取付片8のねじ孔8aに螺合させた状態で、ねじ部13aを締め付けることにより、第1取付片8に連結部本体11を固定するように構成されている。

【0032】

この場合、第1ねじ部材13は、図4および図5に示すように、ねじ部13aが第1取付片8のねじ孔8aに螺合して締め付けられた際に、首下部13bが第1取付片8の外周面における下部に押し当てられることにより、頭部13cが座ぐり部14a内の緩衝材15を座ぐり部14aの底部に一定の押圧力で押し付けるように構成されている。

20

【0033】

また、補強部2の第2取付片9は、図4に示すように、バンド本体1とバンド連結部3とに第2ねじ部材16によって固定されている。この第2ねじ部材16は、バンド連結部3の連結部本体11のねじ穴11cに螺合するねじ部16aと、補強部2の第2取付片9の挿入孔9aに挿入する首下部16bと、バンド本体1の下部突出片6の座ぐり穴6aに配置される頭部16bと、を備えている。

【0034】

この場合、連結部本体11のねじ穴11cは、図4に示すように、連結部本体11のほぼ中心部に下部から上部に向けて貫通することなく設けられている。第2取付片9の挿入孔9aは、その内径が連結部本体11のねじ穴11cの内径よりも大きく、第2取付片9のほぼ中心部にねじ穴11cと同一軸上で対応して設けられている。下部突出片6の座ぐり穴6aは、その内径が第2取付片9の挿入孔9aの内径よりも大きく、下部突出片6のほぼ中心部に挿入孔9aと同一軸上で対応して設けられている。

30

【0035】

これにより、第2ねじ部材16は、図4に示すように、ねじ部16aを下部突出片6の座ぐり穴6aおよび第2取付片9の挿入孔9aに下側から挿入させて連結部本体11のねじ穴11cに螺合させた状態で、ねじ部16aを締め付けることにより、下部突出片6と第2取付片9とに連結部本体11を固定するように構成されている。第2ねじ部材16がバンド本体1の幅方向におけるバンド連結部3の連結部本体11の中心部に取り付けられている。

40

【0036】

この場合、第2ねじ部材16は、図4に示すように、ねじ部16aが連結部本体11のねじ穴11cに螺合して締め付けられた際に、首下部16bが連結部本体11の下面に押し当てられることにより、頭部16cが下部突出片6の座ぐり穴6aの底部に一定の押圧力で押し付けるように構成されている。

【0037】

次に、このようなバンドの作用について説明する。

このバンドを組み立てる場合には、まず、補強部2をバンド本体1の端部にインサート成型によって一体に形成する。このときには、予め、補強部2をポリアセタール(POM)、ポリアミド(PA)、ポリカーボネート(PC)などの剛性の高い硬質の合成樹脂に

50

よって形成する。補強部 2 の合成樹脂は、硬質でありながら多少弾性変形する素材であり、よって耐衝撃性もある。

【 0 0 3 8 】

そして、この補強部 2 をバンド本体 1 の端部にインサート成型によって一体に形成する。すると、補強部 2 の補強部本体 7 がバンド本体 1 の端部の装着凹部 4 内に埋め込まれて、補強部 2 の一對の第 1 取付片 8 と第 2 取付片 9 とがバンド本体 1 の端部から突出する。このときには、第 2 取付片 9 がバンド本体 1 の端部における下部に位置する下部突出片 6 の上に配置される。

【 0 0 3 9 】

また、インサート成型時には、補強部本体 7 の端面に設けられた凹部 7 a にバンド本体 1 の抜止め部 1 0 が配置された状態で、バンド本体 1 に一体に設けられると共に、補強部 2 の複数の食込み孔 7 b にバンド本体 1 の一部が食い込んで設けられる。この場合、補強部 2 の複数の食込み孔 7 b は、補強部本体 7 の端面に設けられた凹部 7 a に連通して設けられていることにより、バンド本体 1 の一部が食込み孔 7 b に食い込んだ際に、バンド本体 1 の一部が補強部本体 7 の凹部 7 a に配置された抜止め部 1 0 に連結される。

【 0 0 4 0 】

これにより、補強部 2 は、インサート成型時にバンド本体 1 の装着凹部 4 内に埋め込まれて、複数の食込み孔 7 b にバンド本体 1 の一部が食い込んだ状態で、抜止め部 1 0 によって装着凹部 4 から抜け出すことがなく、バンド本体 1 の装着凹部 4 に確実にかつ強固に固定されている。

【 0 0 4 1 】

そして、バンド本体 1 の端部にバンド連結部 3 を補強部 2 と共に取り付ける。このときには、まず、バンド連結部 3 の連結部本体 1 1 に設けられた一對の取付穴 1 1 a に補強部 2 の一對の第 1 取付片 8 を嵌め込みながら、連結部本体 1 1 をバンド本体 1 の端部における上部に位置する上部突出片 5 と補強部 2 の第 2 取付片 9 との間に挿入させて配置させる。

【 0 0 4 2 】

この状態では、連結部本体 1 1 における補強部 2 側の端面に設けられた凹部 1 1 b にバンド本体 1 の抜止め部 1 0 が挿入して配置されると共に、連結部本体 1 1 の両側部がバンド本体 1 の端部の端面に隙間を持って接近して配置される。

【 0 0 4 3 】

また、このときには、第 1 取付片 8 のねじ孔 8 a と、連結部本体 1 1 の下部に設けられた挿入孔 1 4 と、この挿入孔 1 4 に設けられた座ぐり部 1 4 a とが同一軸で対応する。また、連結部本体 1 1 のねじ穴 1 1 c と、第 2 取付片 9 の挿入孔 9 a と、下部突出片 6 の座ぐり穴 6 a とが同一軸上で対応する。

【 0 0 4 4 】

そして、補強部 2 の第 1 取付片 8 とバンド連結部 3 の連結部本体 1 1 とを第 1 ねじ部材 1 3 によってねじ止める。このときには、予め、連結部本体 1 1 の挿入孔 1 4 に設けられた座ぐり部 1 4 a 内に緩衝材 1 5 を配置する。この状態で、第 1 ねじ部材 1 3 のねじ部 1 3 a をバンド連結部 3 の下側から連結部本体 1 1 の挿入孔 1 4 に挿入させて補強部 2 の第 1 取付片 8 のねじ孔 8 a に螺合させる。この状態で、ねじ部 1 3 a を締め付けることにより、第 1 取付片 8 に連結部本体 1 1 が固定される。

【 0 0 4 5 】

このように、第 1 ねじ部材 1 3 のねじ部 1 3 a が第 1 取付片 8 のねじ孔 8 a に螺合して締め付けられると、第 1 ねじ部材 1 3 の首下部 1 3 b が第 1 取付片 8 の外周面における下部に押し当てられる。このため、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c が座ぐり部 1 4 a 内において緩衝材 1 5 を座ぐり部 1 4 a の底部に一定の押圧力で押し付ける。これにより、第 1 取付片 8 に連結部本体 1 1 が確実にかつ良好に固定される。

【 0 0 4 6 】

また、補強部 2 の第 2 取付片 9 にバンド本体 1 とバンド連結部 3 とを第 2 ねじ部材 1 6

10

20

30

40

50

によってねじ止めする。このときには、第2ねじ部材16のねじ部16aを下部突出片6の座ぐり穴6aおよび第2取付片9の挿入孔9aに下側から挿入させて連結部本体11のねじ穴11cに螺合させ、この状態でねじ部16aを締め付ける。これにより、下部突出片6と第2取付片9とが連結部本体11に固定される。

【0047】

このように、第2ねじ部材16のねじ部16aが連結部本体11のねじ穴11cに螺合して締め付けられた際には、首下部16bが連結部本体11の下面に押し当てられる。このため、第2ねじ部材16の頭部16cが下部突出片6の座ぐり穴6aの底部に一定の押圧力で押し付けられる。これにより、下部突出片6と第2取付片9とが連結部本体11に確実にかつ良好に固定される。

10

【0048】

このようなバンドを使用する際には、まず、バンド連結部3を腕時計ケースのバンド取付部（いずれも図示せず）に取り付ける。このときには、バンド連結部3の一对の連結片12の間に腕時計ケースのバンド取付部の突起部を配置し、この状態でばね棒などの連結ピンを各連結孔2aと突起部の貫通孔（いずれも図示せず）とに挿入させる。これにより、バンド連結部3が腕時計ケースのバンド取付部に取り付けられる。

【0049】

これにより、腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて使用することができる。この場合には、バンド連結部3の連結部本体11の両側部とバンド本体1の端部の端面とが、隙間を持って互いに接近して配置されることにより、バンド本体1の端部を連結部本体11の両側部に対して変位させることができる。

20

【0050】

このため、このバンドでは、腕時計ケースを腕に取り付けて使用する際に、手首を捩ったり上下に曲げたりすると、手首の捩れや上下の曲がりに応じてバンド本体1の端部をバンド連結部3の両側部に対して変位させることができる。このため、バンド本体1を常に腕にフィットさせることができ、これにより腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて良好に使用することができる。

【0051】

このように、このバンドによれば、装着凹部4が端部に開放されて設けられた軟質の合成樹脂製のバンド本体1と、装着凹部4に埋め込まれ、かつ第1、第2取付片9、9が装着凹部4の開放側に向けて突出して設けられた硬質の合成樹脂製の補強部2と、を備えていることにより、取付強度を確保して高めることができる。

30

【0052】

すなわち、このバンドでは、軟質の合成樹脂製のバンド本体1の装着凹部4に硬質の合成樹脂製の補強部2を埋め込んでいるので、バンド本体1の端部に補強部2を確実にかつ強固に固定することができ、これによりバンド本体1に対する補強部2の取付強度を確保することができると共に、バンド本体1に対する補強部2の取付強度を高めることができる。

【0053】

この場合、このバンドでは、補強部2の第1、第2取付片9、9に固定されてバンド本体1の端部に補強部2と共に取り付けられるバンド連結部3を備えていることにより、バンド本体1に強固に固定された補強部2の第1、第2取付片9、9にバンド連結部3を確実に取り付けることができるので、バンド本体1の端部にバンド連結部3を補強部2によって強固に取り付けることができ、これにより腕時計ケースに対するバンド連結部3の取付強度を高めることができる。

40

【0054】

また、このバンドの補強部2は、バンド本体1の一部が食い込む食込み孔7bを備え、インサート成型によってバンド本体1と一体に設けられていることにより、バンド本体1の装着凹部4に確実にかつ強固に埋め込むことができる。すなわち、インサート成型によって補強部2をバンド本体1に埋め込む際には、補強部2の複数の食込み孔7bにバンド

50



本体 1 の一部を食い込ませることができるので、補強部 2 をバンド本体 1 に確実にかつ強固に埋め込むことができる。

【 0 0 5 5 】

また、補強部 2 をバンド本体 1 にインサート成型した際には、補強部本体 7 の端面に設けられた凹部 7 a に抜止め部 1 0 が配置された状態でバンド本体 1 に一体に形成されるので、この抜止め部 1 0 によってバンド本体 1 の装着凹部 4 から補強部 2 が抜け出さないようにすることができる。

【 0 0 5 6 】

この場合には、補強部 2 の複数の食込み孔 7 b が補強部本体 7 の凹部 7 a に連通していることにより、複数の食込み孔 7 b に食い込んだバンド本体 1 の一部を抜止め部 1 0 に連結させることができるので、より一層、補強部 2 をバンド本体 1 に確実にかつ強固に埋め込むことができる。

10

【 0 0 5 7 】

また、このバンドでは、補強部 2 の第 1、第 2 取付片 9、9 のうち、一对の第 1 取付片 8 がバンド連結部 3 に設けられた一对の取付穴 1 1 a に嵌め込まれ、第 2 取付片 9 がバンド連結部 3 の下に配置されることにより、バンド連結部 3 を補強部 2 に正確に位置決めして確実にかつ良好に取り付けることができる。

【 0 0 5 8 】

すなわち、一对の第 1 取付片 8 は、バンド連結部 3 に設けられた一对の取付穴 1 1 a に嵌め込まれることにより、バンド連結部 3 を補強部 2 に正確に位置決めして確実にかつ良好に取り付けることができる。また、第 2 取付片 9 は、バンド連結部 3 の下に配置されることにより、バンド連結部 3 を確実に支持して補強部 2 に良好に取り付けることができる。

20

【 0 0 5 9 】

また、このバンドでは、一对の第 1 取付片 8 がバンド連結部 3 に設けられた一对の取付穴 1 1 a に嵌め込まれ、第 2 取付片 9 がバンド連結部 3 の下に配置された際に、バンド連結部 3 の連結部本体 1 1 の両側部とバンド本体 1 の端部の端面とが、隙間を持って互いに接近して配置されることにより、バンド本体 1 の端部を連結部本体 1 1 の両側部に対して変位させることができる。

【 0 0 6 0 】

このため、このバンドでは、バンド連結部 3 を腕時計ケースのバンド取付部に取り付けて、腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて使用する際に、手首を捻ったり上下に曲げたりすると、手首の捻れや上下の曲がりに応じてバンド本体 1 の端部をバンド連結部 3 の両側部に対して変位させることができる。このため、バンド本体 1 を常に腕にフィットさせることができ、これにより腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて良好に使用することができる。

30

【 0 0 6 1 】

また、このバンドでは、一对の第 1 取付片 8 にバンド連結部 3 を固定する第 1 ねじ部材 1 3 と、第 2 取付片 9 にバンド連結部 3 とバンド本体 1 の下部突出片 6 とを固定する第 2 ねじ部材 1 6 と、を備えていることにより、これら第 1 ねじ部材 1 3 と第 2 ねじ部材 1 6 とによってバンド連結部 3 を一对の第 1 取付片 8 と第 2 取付片 9 とに確実にかつ強固に取り付けることができる。

40

【 0 0 6 2 】

この場合、第 1 ねじ部材 1 3 は、バンド連結部 3 の挿入孔 1 4 を通して第 1 取付片 8 のねじ孔 8 a に下側から螺着するねじ部 1 3 a と、バンド連結部 3 の挿入孔 1 4 に下側から挿入されて第 1 取付片 8 の外面に当接する首下部 1 3 b と、バンド連結部 3 の座ぐり部 1 4 a に挿入してバンド連結部 3 を押え付ける頭部 1 3 c と、を備えていることにより、第 1 ねじ部材 1 3 によってバンド連結部 3 を第 1 取付片 8 に確実に固定することができる。

【 0 0 6 3 】

すなわち、この第 1 ねじ部材 1 3 は、ねじ部 1 3 a をバンド連結部 3 の下側から連結部

50

本体 1 1 の挿入孔 1 4 に挿入させて補強部 2 の第 1 取付片 8 のねじ孔 8 a に螺合させ、この状態でねじ部 1 3 a を締め付けることにより、第 1 取付片 8 に連結部本体 1 1 を確実に固定することができる。

【 0 0 6 4 】

この場合、第 1 ねじ部材 1 3 は、首下部 1 3 b が第 1 取付片 8 の外周面における下部に押し当てられるので、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c がバンド連結部 3 を一定の押圧力で押し付けることができ、これにより連結部本体 1 1 を第 1 取付片 8 に良好に固定することができる。

【 0 0 6 5 】

この場合、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c とバンド連結部 3 の座ぐり部 1 4 a の底部との間には、緩衝材 1 5 が設けられていることにより、第 1 ねじ部材 1 3 の首下部 1 3 b が第 1 取付片 8 の外周面における下部に押し当てられた際に、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c で緩衝材 1 5 を一定の押圧力で押し付けることができ、これにより緩衝材 1 5 を良好に押え付けてバンド連結部 3 を補強部 2 に対して良好に固定することができる。また、緩衝材 1 5 により外部から衝撃を受けても吸収することができる。さらに、緩衝材 1 5 により緩衝材 1 5 の厚さ方向や円周方向に第 2 ねじ部材 1 6 を支点として、バンドを回転させることができフィット感が向上する。

【 0 0 6 6 】

また、第 2 ねじ部材 1 6 は、バンド連結部 3 に設けられたねじ穴 1 1 c に下側から螺合するねじ部 1 6 a と、補強部 2 の第 2 取付片 9 に設けられた挿入孔 9 a に下側から挿入する首下部 1 6 b と、バンド本体 1 の下部突出片 6 の座ぐり穴 6 a に配置される頭部 1 6 c と、を備えていることにより、第 2 ねじ部材 1 6 によってバンド連結部 3 とバンド本体 1 の下部突出片 6 とを第 2 取付片 9 に確実に固定することができる。

【 0 0 6 7 】

すなわち、第 2 ねじ部材 1 6 は、ねじ部 1 6 a を下部突出片 6 の座ぐり穴 6 a および第 2 取付片 9 の挿入孔 9 a に下側から挿入させて連結部本体 1 1 のねじ穴 1 1 c に螺合させた状態で、ねじ部 1 6 a を締め付けることにより、第 2 取付片 9 にバンド連結部 3 とバンド本体 1 の下部突出片 6 とを確実に固定することができ、これによりバンド本体 1 の下部突出片 6 のめくれを防ぐことができる。

【 0 0 6 8 】

この場合、第 2 ねじ部材 1 6 は、ねじ部 1 6 a が連結部本体 1 1 のねじ穴 1 1 c に螺合して締め付けられた際に、首下部 1 6 b が連結部本体 1 1 の下面に押し当てられることにより、頭部 1 6 c で下部突出片 6 を一定の押圧力で押し付けることができ、これにより連結部本体 1 1 とバンド本体 1 の下部突出片 6 とを第 1 取付片 8 に良好に固定することができる。

【 0 0 6 9 】

さらに、このバンドでは、第 1 ねじ部材 1 3 と第 2 ねじ部材 1 6 とがバンド連結部 3 の下側から補強部 2 にねじ込まれているので、バンド連結部 3 を腕時計ケースのバンド取付部に取り付けて、腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて使用する際に、第 1 ねじ部材 1 3 と第 2 ねじ部材 1 6 とが外部から見えないように隠すことができるので、デザインの好ましいものを提供することができる。

【 0 0 7 0 】

( 第 2 実施形態 )

次に、図 9 ~ 図 1 3 を参照して、この発明を腕時計のバンドに適用した第 2 実施形態について説明する。なお、図 1 ~ 図 8 に示された第 1 実施形態と同一部分には同一符号を付して説明する。

このバンドは、図 9 ~ 図 1 3 に示すように、一对の第 1 取付片 8 に一对の第 1 ねじ部材 1 3 をバンド本体 1 の幅方向におけるバンド連結部 3 の両側部から取り付ける構造であり、これ以外は第 1 実施形態とほぼ同じ構造になっている。

【 0 0 7 1 】

10

20

30

40

50

この場合にも、補強部 2 は、第 1 実施形態と同様、インサート成型によってバンド本体 1 の端部に一体に埋め込まれている。この補強部 2 に設けられた一对の第 1 取付片 8 には、図 10 ~ 図 13 に示すように、第 1 ねじ部材 13 のねじ部 13 a がバンド本体 1 の幅方向の両側から螺合するねじ孔 20 がそれぞれ設けられている。この場合、一对の第 1 取付片 8 の各ねじ孔 20 は、バンド本体 1 の幅方向において同一軸上に対応して設けられている。

【 0 0 7 2 】

また、バンド本体 1 の幅方向におけるバンド連結部 3 の連結部本体 11 の両側部には、図 10 ~ 図 13 に示すように、第 1 ねじ部材 13 の首下部 13 b がバンド本体 1 の幅方向における両側から挿入する挿入孔 21 がそれぞれ設けられている。この場合にも、各挿入孔 21 は、バンド本体 1 の幅方向において同一軸上に対応して設けられている。

10

【 0 0 7 3 】

さらに、バンド連結部 3 の連結部本体 11 の両側部に設けられた各挿入孔 21 には、図 9 ~ 図 11 に示すように、第 1 ねじ部材 13 の頭部 13 c が挿入する座ぐり部 21 a がそれぞれ設けられている。この場合にも、座ぐり部 21 a 内には、第 1 実施形態と同様に、緩衝材 15 が配置されている。

【 0 0 7 4 】

このようなバンド本体 1 の端部にバンド連結部 3 を取り付ける場合には、第 1 実施形態と同様、バンド連結部 3 の連結部本体 11 に設けられた一对の取付穴 11 a に補強部 2 の一对の第 1 取付片 8 を嵌め込みながら、連結部本体 11 をバンド本体 1 の端部における上部に位置する上部突出片 5 と補強部 2 の第 2 取付片 9 との間に挿入させて配置させる。

20

【 0 0 7 5 】

このときには、第 1 実施形態と同様、連結部本体 11 における補強部 2 側の端面に設けられた凹部 11 b にバンド本体 1 の抜止め部 10 が挿入して配置されると共に、連結部本体 11 の両側部とバンド本体 1 の端部の端面とが、隙間を持って互いに接近して配置される。

【 0 0 7 6 】

また、このときには、第 1 取付片 8 のねじ孔 20 と、連結部本体 11 の両側部に設けられた挿入孔 21 と、この挿入孔 21 に設けられた座ぐり部 21 a とが、バンド本体 1 の幅方向において同一軸で対応する。また、連結部本体 11 のねじ穴 11 c と、第 2 取付片 9 の挿入孔 9 a と、下部突出片 6 の座ぐり穴 6 a とが、第 1 実施形態と同様、同一軸上で対応する。

30

【 0 0 7 7 】

そして、補強部 2 の第 1 取付片 8 とバンド連結部 3 の連結部本体 11 とを第 1 ねじ部材 13 によってねじ止めする。このときには、第 1 実施形態と同様、予め、連結部本体 11 の挿入孔 21 に設けられた座ぐり部 21 a 内に緩衝材 15 を配置する。

【 0 0 7 8 】

この状態で、第 1 ねじ部材 13 のねじ部 13 a をバンド本体 1 の幅方向におけるバンド連結部 3 の両側から連結部本体 11 の挿入孔 21 に挿入させて補強部 2 の第 1 取付片 8 のねじ孔 20 に螺合させる。この状態で、ねじ部 13 a を締め付けることにより、第 1 取付片 8 に連結部本体 11 が固定される。

40

【 0 0 7 9 】

このように、第 1 ねじ部材 13 のねじ部 13 a が第 1 取付片 8 のねじ孔 20 に螺合して締め付けられた際には、第 1 実施形態と同様、第 1 ねじ部材 13 の首下部 13 b が第 1 取付片 8 の外周面に側方から押し当てられる。これにより、第 1 ねじ部材 13 の頭部 13 c が座ぐり部 21 a 内において緩衝材 15 を座ぐり部 21 a の底部に一定の押圧力で押し付ける。このため、第 1 取付片 8 に連結部本体 11 が確実にかつ良好に固定される。

【 0 0 8 0 】

また、補強部 2 の第 2 取付片 9 にバンド本体 1 とバンド連結部 3 とを第 2 ねじ部材 16 によってねじ止めする場合には、第 1 実施形態と同様、第 2 ねじ部材 16 のねじ部 16 a

50

を下部突出片 6 の座ぐり穴 6 a および第 2 取付片 9 の挿入孔 9 a に下側から挿入させて連結部本体 1 1 のねじ穴 1 1 c に螺合させる。この状態で、ねじ部 1 6 a を締め付けることにより、下部突出片 6 と第 2 取付片 9 とが連結部本体 1 1 に固定される。

【 0 0 8 1 】

このようなバンドのバンド連結部 3 を腕時計ケースのバンド取付部に取り付け、このバンドによって腕時計ケースを腕に取り付けて使用する際には、連結部本体 1 1 の両側部とバンド本体 1 の端部の端面とが、隙間を持って互いに接近して配置されることにより、腕の手首を捻ったり上下に曲げたりすると、手首の捻れや上下の曲がりに応じてバンド本体 1 の端部をバンド連結部 3 の両側部に対して変位させることができる。

【 0 0 8 2 】

この場合には、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c とバンド連結部 3 の座ぐり部 2 1 a との間に緩衝材 1 5 が配置され、かつ第 2 ねじ部材 1 6 がバンド本体 1 の幅方向におけるバンド連結部 3 の連結部本体 1 1 の中心部に取り付けられているので、この第 2 ねじ部材 1 6 を支点としてバンド連結部 3 が回転方向に変位する。

【 0 0 8 3 】

すなわち、このときには、緩衝材 1 5 が第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c によって傾くように変形するので、バンド連結部 3 が第 2 ねじ部材 1 6 を支点として回転方向に変位する。このため、バンド本体 1 を常に腕にフィットさせることができるので、腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて良好に使用することができる。

【 0 0 8 4 】

このように、このバンドによれば、第 1 実施形態と同様の作用効果があるほか、一对の第 1 取付片 8 にバンド連結部 3 を固定する第 1 ねじ部材 1 3 と、第 2 取付片 9 にバンド本体 1 の下部突出片 6 とバンド連結部 3 とを固定する第 2 ねじ部材 1 6 と、を備えていることにより、第 1 実施形態と同様、第 1 ねじ部材 1 3 と第 2 ねじ部材 1 6 とによってバンド連結部 3 をバンド本体 1 の端部に補強部 2 と共に確実にかつ強固に取り付けることができる。

【 0 0 8 5 】

この場合、第 1 ねじ部材 1 3 は、バンド連結部 3 の両側に設けられた挿入孔 2 1 を通して第 1 取付片 8 のねじ孔 2 0 に側方から螺着するねじ部 1 3 a と、バンド連結部 3 の挿入孔 2 0 に側方から挿入されて第 1 取付片 8 の側方から第 1 取付片 8 の外面に当接する首下部 1 3 b と、バンド連結部 3 の座ぐり部 2 1 a に挿入してバンド連結部 3 を側方から押え付ける頭部 1 3 c と、を備えていることにより、第 1 実施形態と同様、第 1 ねじ部材 1 3 によってバンド連結部 3 を第 1 取付片 8 に確実に固定することができる。

【 0 0 8 6 】

すなわち、この第 1 ねじ部材 1 3 は、ねじ部 1 3 a をバンド連結部 3 の側方から連結部本体 1 1 の挿入孔 2 1 に挿入させて補強部 2 の第 1 取付片 8 のねじ孔 8 a に螺合させ、この状態でねじ部 1 3 a を締め付けることにより、第 1 実施形態と同様、第 1 取付片 8 に連結部本体 1 1 を確実に固定することができる。

【 0 0 8 7 】

この場合にも、第 1 ねじ部材 1 3 は、首下部 1 3 b が第 1 取付片 8 の外周面における側部に押し当てられるので、第 1 実施形態と同様、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c がバンド連結部 3 と緩衝材 1 5 とを一定の押圧力で押し付けることができ、これにより連結部本体 1 1 を第 1 取付片 8 に良好に固定することができる。

【 0 0 8 8 】

すなわち、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c とバンド連結部 3 の座ぐり部 2 1 a の底部との間に設けられた緩衝材 1 5 は、第 1 ねじ部材 1 3 の首下部 1 3 b が第 1 取付片 8 の外周面における側部に押し当てられた際に、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c によって一定の押圧力で押し付けられるので、第 1 実施形態と同様、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c によって緩衝材 1 5 を良好に押え付けてバンド連結部 3 を補強部 2 に対して良好に固定することができる。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 8 9 】

この場合にも、このバンドでは、一对の第 1 取付片 8 がバンド連結部 3 に設けられた一对の取付穴 1 1 a に嵌め込まれ、第 2 取付片 9 がバンド連結部 3 の下に配置された際に、バンド連結部 3 の連結部本体 1 1 の両側部とバンド本体 1 の端部の端面とが、隙間を持って互いに接近して配置されることにより、バンド本体 1 の端部を連結部本体 1 1 の両側部に対して変位させることができる。

## 【 0 0 9 0 】

また、このバンドでは、第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c とバンド連結部 3 の座ぐり部 2 1 a との間に緩衝材 1 5 が配置され、かつ第 2 ねじ部材 1 6 がバンド本体 1 の幅方向におけるバンド連結部 3 の連結部本体 1 1 の中心部に取り付けられているので、第 2 ねじ部材 1 6 を支点としてバンド連結部 3 を回転方向に変位させることができる。

10

## 【 0 0 9 1 】

すなわち、このバンドでは、緩衝材 1 5 が第 1 ねじ部材 1 3 の頭部 1 3 c によって傾くように変形するので、第 2 ねじ部材 1 6 を支点としてバンド連結部 3 を回転方向に変位させることができる。このため、バンド本体 1 を常に腕にフィットさせることができるので、腕時計ケースをバンドによって腕に取り付けて良好に使用することができる。

## 【 0 0 9 2 】

なお、上述した第 1、第 2 実施形態では、バンド本体 1 の端部にバンド連結部 3 を補強部 2 によって取り付け、このバンド連結部 3 を腕時計ケースのバンド取付部に取り付けるように構成した場合について述べたが、この発明は、これに限らず、例えばバンド本体 1 の端部にバンド連結部 3 を取り付けずに、バンド本体 1 の端部に埋め込まれた補強部 2 の第 1、第 2 取付片 9、9 によって、バンド本体 1 の端部を腕時計ケースのバンド取付部に取り付けるように構成しても良い。

20

## 【 0 0 9 3 】

また、バンド連結部 3 が腕時計ケースに一体に形成されていても良い。また、補強部 2 の第 1、第 2 取付片 8、9 は、上述した第 1、第 2 実施形態の構成に限らず、例えば、一对の第 1 取付片 8 だけ設けるようにしても良い。また、第 2 取付片 9 が第 1 取付片 8 と同じ丸棒状に形成されても良い。

## 【 0 0 9 4 】

また、上述した第 1、第 2 実施形態では、腕時計に適用した場合について述べたが、この発明は、必ずしも腕時計である必要はなく、例えばバッグや鞆、衣服などのバンドにも適用することができる。

30

## 【 0 0 9 5 】

以上、この発明のいくつかの実施形態について説明したが、この発明は、これらに限られるものではなく、特許請求の範囲に記載された発明とその均等の範囲を含むものである。

以下に、本願の特許請求の範囲に記載された発明を付記する。

## 【 0 0 9 6 】

(付記)

請求項 1 に記載の発明は、装着凹部が端部に開放されて設けられた軟質の合成樹脂製のバンド本体と、前記装着凹部に埋め込まれ、かつ複数の取付片が前記装着凹部の前記開放側に向けて突出して設けられた硬質の合成樹脂製の補強部と、前記複数の取付片に固定されて前記バンド本体の前記端部に前記補強部と共に取り付けられるバンド連結部と、前記複数の取付片は、前記バンド連結部に設けられた複数の取付穴に嵌め込まれる第 1 取付片と、前記第 1 取付片に前記バンド連結部を固定する第 1 ねじ部材と、前記第 1 ねじ部材と前記バンド連結部との間に設けられた緩衝材と、を備えていることを特徴とするバンドである。

40

## 【 0 0 9 7 】

請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載のバンドにおいて、前記補強部は、前記バンド本体の一部が食い込む食込み部を備え、インサート成型によって前記バンド本体と一体

50

に設けられていることを特徴とするバンドである。

【 0 0 9 8 】

請求項 3 に記載の発明は、請求項 1 または請求項 2 に記載のバンドにおいて、前記補強部の前記複数の取付片は、前記バンド連結部の下に配置される第 2 取付片を備えていることを特徴とするバンドである。

【 0 0 9 9 】

請求項 4 に記載の発明は、請求項 3 に記載のバンドにおいて、前記第 2 取付片に前記バンド本体と前記バンド連結部とを固定する第 2 ねじ部材を備えていることを特徴とするバンドである。

【 0 1 0 0 】

請求項 5 に記載の発明は、請求項 1 ~ 請求項 4 のいずれかに記載のバンドにおいて、前記第 1 ねじ部材は、前記バンド連結部の下側から前記バンド連結部を通して前記第 1 取付片に螺着することを特徴とするバンドである。

【 0 1 0 1 】

請求項 6 に記載の発明は、請求項 1 ~ 請求項 4 のいずれかに記載のバンドにおいて、前記第 1 ねじ部材は、前記バンド本体の長手方向と直交する幅方向における前記バンド連結部の両側から前記バンド連結部を通して前記第 1 取付片に螺着することを特徴とするバンドである。

【 0 1 0 2 】

請求項 7 に記載の発明は、請求項 1 ~ 請求項 6 のいずれかに記載のバンドにおいて、前記補強部は、硬質かつ弾性変形する素材であることを特徴とするバンドである。

【 0 1 0 3 】

請求項 8 に記載の発明は、請求項 4 に記載のバンドにおいて、前記第 2 ねじ部材は、前記バンド連結部の中間部に取り付けられていることを特徴とするバンドである。

【 0 1 0 4 】

請求項 9 に記載の発明は、請求項 1 ~ 請求項 8 のいずれかに記載されたバンドを備えていることを特徴とする時計である。

【 符号の説明 】

【 0 1 0 5 】

- 1 バンド本体
- 2 補強部
- 3 バンド連結部
- 4 装着凹部
- 5 上部突出片
- 6 下部突出片
- 6 a 座ぐり穴
- 7 補強部本体
- 7 a 凹部
- 7 b 食込み孔
- 8 第 1 取付片
- 8 a、2 0 ねじ孔
- 9 第 2 取付片
- 1 0 抜止め部
- 1 1 連結部本体
- 1 1 a 取付穴
- 1 2 連結片
- 1 3、1 6 第 1、第 2 ねじ部材
- 1 3 a、1 6 a ねじ部
- 1 3 b、1 6 b 首下部
- 1 3 c、1 6 c 頭部

10

20

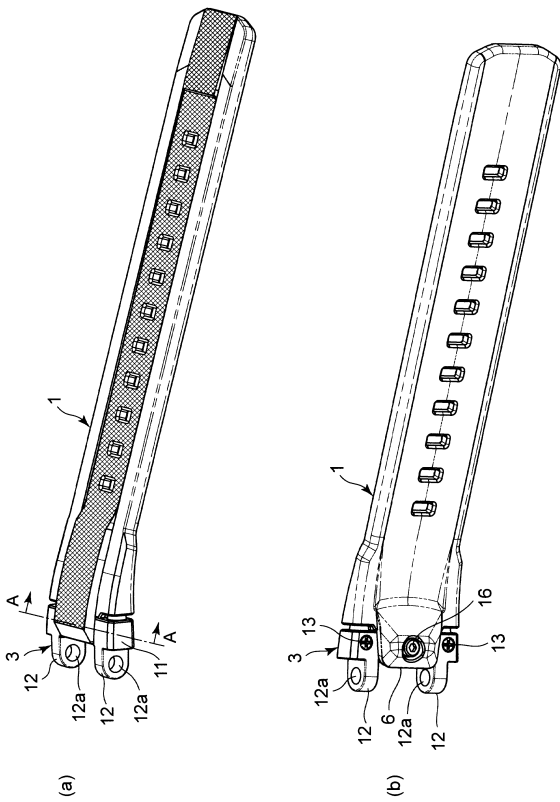
30

40

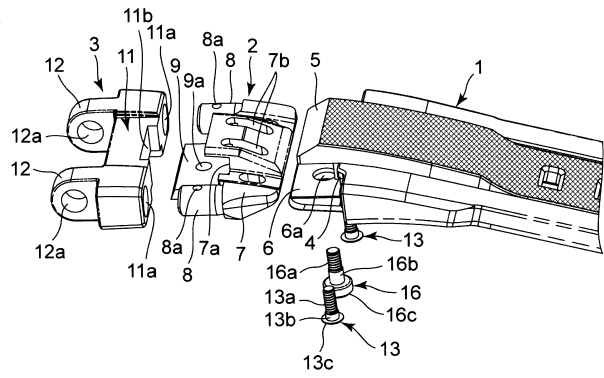
50

- 1 4、2 1 挿入孔
- 1 4 a、2 1 a 座ぐり部
- 1 5 緩衝材

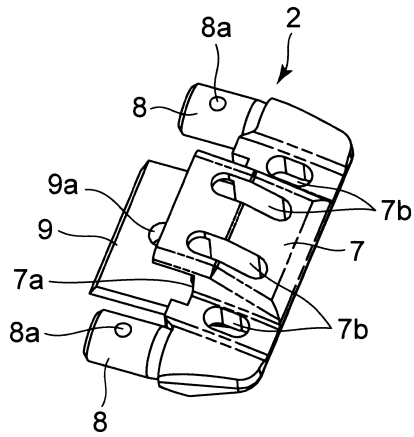
【図 1】



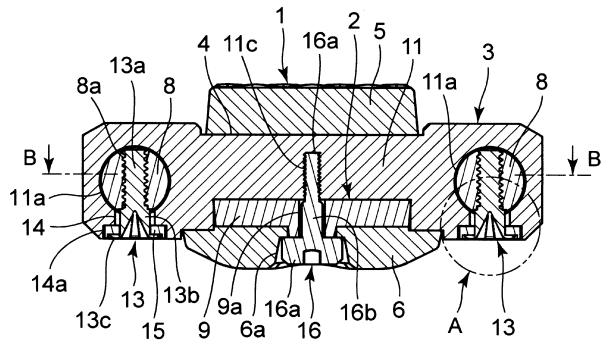
【図 2】



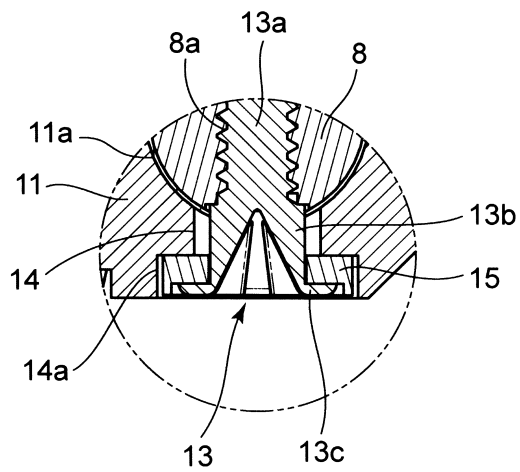
【 図 3 】



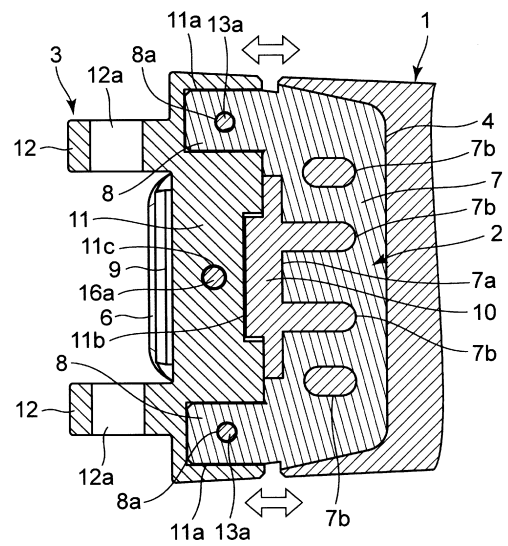
【 図 4 】



【 図 5 】

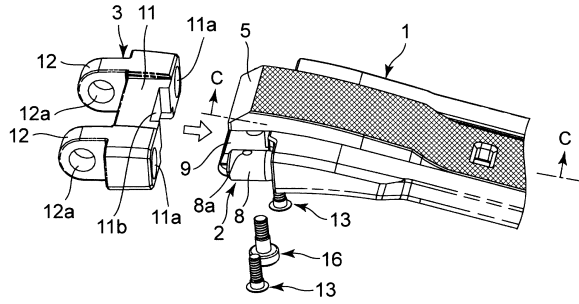


【 図 6 】

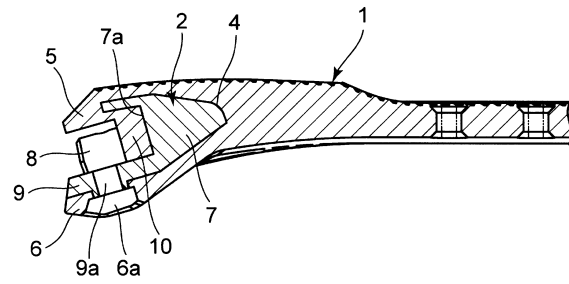




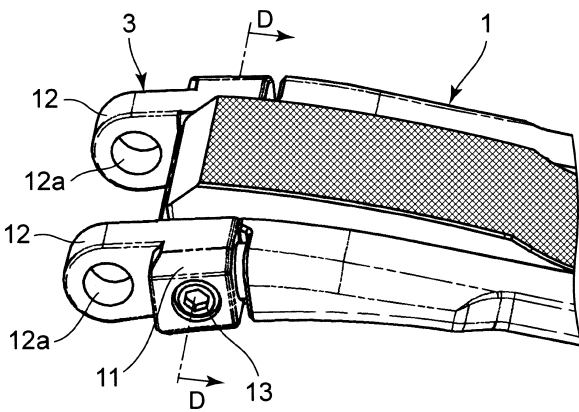
【図7】



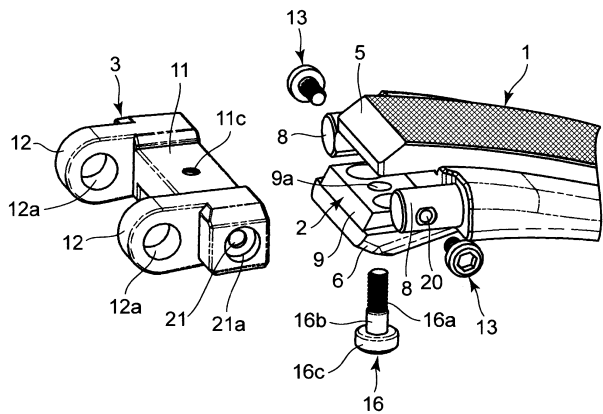
【図8】



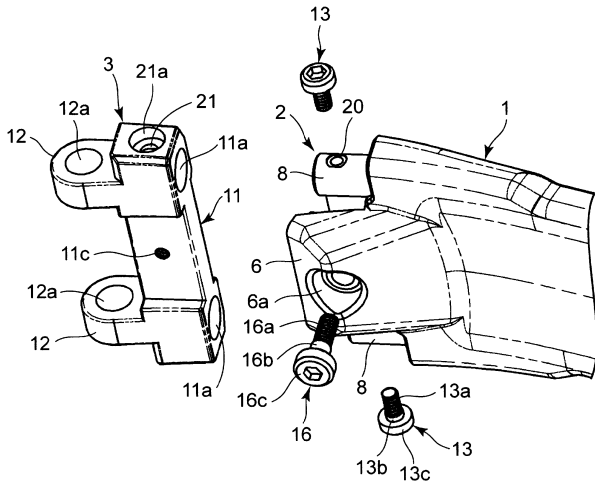
【図9】



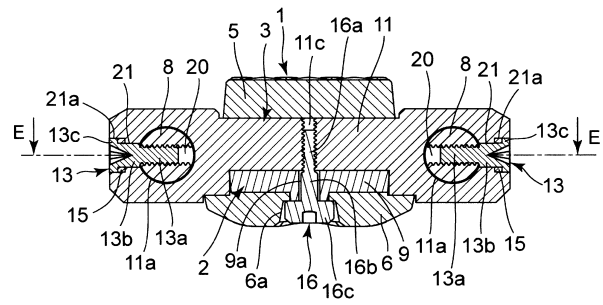
【図10】



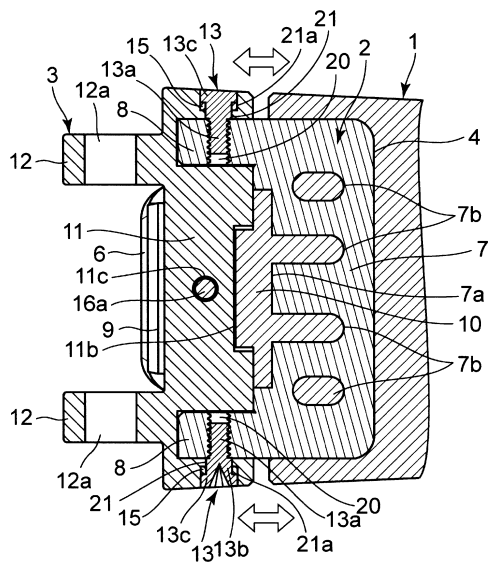
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



---

フロントページの続き

- (56)参考文献 実開昭61-123723(JP,U)  
実開昭51-155672(JP,U)  
実開昭50-117874(JP,U)  
特開2015-136547(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A44C 5/14  
A44C 5/02  
G04B 37/16